

# 小山田小

2024年9月30日

6号

町田市立小山田小学校

校長 小澤 新也

042(797)1824

<https://machida.schoolweb.ne.jp/1310200>

## 図書館は「知」の入口

校長 小澤 新也

文化庁は5年に1回、読書習慣についての調査をしています。今年1月から3月にかけて全国の16歳以上の6000人に調査し、3559人から回答を得え、先日調査結果が公表されました。

1か月に読む電子書籍を含む本の数を尋ねたところ、1冊も「読まない」と答えた人の割合は62.6%にのぼりました。本を読んでいると答えた人を含めても読書量が「減っている」と答えた割合は69.1%にのぼり、こちらも過去最高となりました。

文化庁は「スマートフォンの利用が増えていることや、書店の減少で本を手にする機会が減ってきていることも影響し、読書離れが進んでいると推測される。文字や活字に親しむ機会の充実を図っていきたい」という見解を発表しました。

一方、2023年6月に全国学校図書館協議会が小学4～6年生を対象とした調査では、1か月の平均読書冊数は12.6冊と、高い値を示しています。経年の変化を見ても、この20年ほどの間に確実に伸びています。しかし、1か月に1冊も本を読まないという児童も7%程度いることも明らかになっています。

小山田小学校の図書館データを見ると、ここ4年間では年間で12000～14000冊程度の貸し出しがあることがわかります。学年や学級で違いはあるものの、児童一人当たりの年間貸し出し冊数の平均は、60～70冊となります。

小山田小学校の図書館は、大きく2つの特徴があります。1つは配架の工夫。公共図書館と同じように、図書館にあるすべての本を、内容によって1類から9類までに分類し、どれにも当てはまらないものを「0総記」として、全部で10のグループに分けています。さらにそれぞれのグループを10に分け、細分化していきます。ただし、背表紙に数字が書いてあるだけではわかりづらいので、イラストで描かれた分類シールを全ての本に貼ってあります。イラストシールを見れば、その本のジャンルがわかります。また、小学生の興味が集まる項目については分類をさらに細かく分け、例えば昆虫の仲間でも「トンボ」「セミ」「カブトムシ」「チョウ」「カマキリ」は別のシールが貼ってあります。同じ産業・技術に分類される「料理」には卵、「裁縫」には針と糸といった具合です。こうした細かな分類と配架で、自分の好きなジャンルの本を見つけるのが容易になります。

もう1つの特徴は、積極的に漫画を並べていることです。これまでの図書館でも歴史漫画は大人気でした。ジャンルによっては、ビジュアルがメインの表現である漫画の方が分かりやすいものがあります。例えば近年人気となった「はたらく細胞」。児童書には扱いのないジャンルの本も漫画なら見つかります。「へんなものみつけ」（博物館学）「しょせん他人事ですから」（法律）「ゆるキャン」（キャンプ）等等。子どもに人気なら何でもではなく、暴力や性を扱うものはもちろん並んでいません。

図書館は「知」の入口。小学生のうちに、楽しく多読する習慣を身に付けてほしいと願っています。自分の興味のもてる本を読むことが大事です。自分に合ったレベルの本から始めて、少しずつ難しい本に挑戦するといいですね。短い時間でも毎日読む習慣をつけると、どんどん読書が楽しくなってきます。

夕方、日の暮れる時間が早くなってきました。家での時間も増えることでしょう。ゲームやスマホばかりでなく、子どもたちと本を手にとってみませんか。